

「読解力」は向上したのか
- PISA2003 年調査以降の読解指導の問題点 -

秋 山 達 也*

Has Reading Ability Improved?
~Some Problems of Teaching 'How to Read and Understand' after PISA Survey made
in 2003~

Tatsuya Akiyama

要約

PISA2003 年調査は、我が国の国語科教育における「読解力」のとらえ方、読解指導のあり方に大きな変化をもたらしたが、論理的思考力の育成を図るという点からみると依然として大きな課題を抱えている。

キーワード：国語科教育 読解力 PISA 調査 論理的思考力

(Abstract)

A PISA Survey in 2003 has given a drastic change to how to understand Reading Ability in teaching Japanese and to what it should be to teach how to read and understand. However, from the viewpoint of fostering logical thinking, there are still many problems to be solved.

Keywords : Teaching Japanese, Reading Ability, PISA, Logical thinking

はじめに

現行学習指導要領の改訂から10年を経て、新学習指導要領の本格実施は目前に迫っている。この10年間で、「読解力」にかかわる施策は教育改革の重点の一つとされ、目に見える変化の一つとして様変わりした国語科の教科書がある。PISA調査向けのトレーニングテキストかと思まごうような様相を呈している感もあるが、「読解力」の学力観の見直しを図ることには一定の成果を上げ、その結果としてPISA調査における「読解力」の得点と順位の向上をもたらしたとも言える。

しかし、このように表面にあらわれた教材と指導方法の変化、PISA調査における好結果とは相反する形で、国語科教育が従前から抱えていた「論理的思考力」育成の課題は依然として残されたままである。それは、国語科教育における「読解力」の向上に不可欠な「叙述に即す」という指導が不十分なままであることに起因する。

そこで、本「研究ノート」において、「PISA調査問題」「全国学力・学習状況調査」（以後「全国学力」とする）の設問を数点取り上げ、比較検討し、国語科教育になお残る「表現に即す」読解指導の具体的な問題点を指摘する。

1 PISA2003年調査ショックと国語科教育における読解指導

(1) PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策

いわゆる「PISA2003年調査ショック」以降、「読解力」向上の施策が実施された。その主なものとして次の施策があげられる。¹⁾

- 学習指導要領(平成15(2003)年12月)等の一部改正
 - 子どもの実態に応じた、発展的内容の指導を充実
(「学習指導要領の基準性」を明確化、教科書に「発展的な学習内容」の記述)
- 「読解力向上プログラム」策定(平成17(2005)年12月)
 - PISA型「読解力」の育成を目指し、読書活動の充実など、学校、国・教育委員会での取組を明示。
- 「全国学力・学習状況調査」実施(平成19(2007)年4月～)
 - 調査結果等を踏まえた、学校、国・教育委員会での取組による検証改善サイクルの構築。

予定されていた時期を前倒しする形で改訂された現行学習指導要領(平成20年版)は、これらの施策の集大成として位置づけられている。それは、各教科の解説「第一章 総説1改訂の経緯」²⁾において、次のように述べられていることから明らかである。

OECD(経済開発協力機構)のPISA調査など各種の調査からは、我が国の児童生徒について

ては、例えば、

- ① 思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題, 知識・技能を活用する問題に課題が見られる。
- ② 読解力で成績分布の分散が拡大しており, その背景には家庭での学習時間などの学習意欲, 学習習慣・生活習慣に課題,
- ③ 自分への自信の欠如や自らの将来への不安, 体力の低下といった課題, が見られるところである。

このため, 平成 17 年 2 月には, 文部科学大臣から, 21 世紀を生きる子どもたちの教育の充実を図るため, 教員の資質・能力の向上や教育条件の整備などと併せて, 国の教育課程の基準全体の見直しについて検討するよう, 中央教育審議会に対して要請し, 同年 4 月から審議が開始された。(中略: 筆者) 2 年 10 か月にわたる審議の末, 平成 20 年 1 月に「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」答申を行った。

「このため」と表現されているように, PISA 調査を筆頭とする各種調査の結果から①～③の課題が見られ, それを改善する方向で国の教育課程の「基準全体の見直し」の検討を中教審に諮問し答申を受けたのである。そして, 現行学習指導要領の改訂が行われたのである。現行学習指導要領は①～③の課題を克服する目的で改訂されたのであり, 課題の②は直接的に PISA 調査の結果を反映している。

(2) 説明的文章を中心とする PISA 調査問題

PISA2009 年調査問題の読解力に関わる設問を一覧表にすると以下の通りである。³⁾

番号	問題名	問題の初出年	設問数	文章の形式
1. 1	携帯電話の安全性に関する問題	2009年調査問題	4	説明的文章
1. 2	芝居は最高に関する問題	2009年調査問題	4	文学的文章: 戯曲(脚本)
1. 3	在宅勤務に関する問題	2009年調査問題	3	説明的文章
1. 4	落書きに関する問題	2000年調査問題	4	説明的文章
1. 5	ランニングシューズに関する問題	2000年調査問題	4	説明的文章

読解力に関わる設問は 5。うち説明的文章の設問が 4 で, 文学的文章の設問は 1 である。問いの数で見ると, 総数は 19。うち説明文の問いは 15 で, 文学的文章の問いは 4 であり全体の 21. 1%である。PISA 調査で取り上げられる文章(連続テキスト, 非連続テキスト共

に) は、ここに示した 2009 年調査問題に関わらず説明的文章が多数であり、文学的文章を用いての設問は少数なのである。

このことは、PISA 調査の「内容」との関わりが大きい。⁴⁾

□PISA 調査は、義務教育修了段階の 15 歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみるものであり、特定の学校カリキュラムをどれだけ習得しているかをみるものではない。

□読解力の定義が、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」(下線：新たに加えられた部分)となった。読解力はただ単に読む知識や技能があるというだけでなく、様々な目的のために読みを価値付けたり、用いたりする能力によっても構成されるという考え方から(後略：筆者)

児童生徒が得た知識や技能は、「実生活の様々な場面でどれだけ活用できるか」「効果的に社会に参加するため」にとある。そこで「携帯電話の安全性」「在宅勤務」「落書き」「ランニングシューズ」等の「実生活の様々な場面」が取り上げられ、これらに関わる文章は説明的文章になる。

そして、このことが我が国の国語科教育の読解指導全般に影響を与えていると考えられる。つまり、PISA2003 調査が与えた影響は、国語科の授業における説明的文章の読解には一定の変化をもたらしたが、文章の読解において最も必要とされる「論理的思考力」を身につけさせる指導にはさほどの変化をもたらさなかったと。特に、出題数の少ない文学的文章の読解においては、従来からの「表現に即す」ことの不十分さ(「思い入れ読み」「恣意的な読解」)が今なお残されていることとなった。

2 国語科教育における「論理的思考力」育成の弱さ 1

ここでは、読解指導における「表現に即す」ことの不十分さを具体的に検討する。取り上げるのは、「PISA 調査」問題と「全国学力」の問題である。両調査の問題を取り上げるのは、調査問題の設問(「問う内容」と「問い方」)が日常的に行われている指導の反映であると考えからである。また、どのような内容をどのように問うか、という調査問題の設問が、日常的な授業の教科内容と指導方法を規定すると考えるからである。

(1) PISA 調査における「落書き」問題

国語科教育に限らず、我が国の学校教育における「読解力」に大きな影響を与えたのが以下に示す「落書きに関する問題」⁵⁾である。この問題は、「読解力」の概念を変えたと言っても過言でない。

1. 4 ■ 落書きに関する問題(PISA2000年調査問題)

落書き

学校の壁の落書きに頭に来ています。壁から落書きを消して塗り直すのは、今度が4度目だからです。創造力という点では見上げたものだけけど、社会に余分な損失を負担させないで、自分を表現する方法を探すべきです。

禁じられている場所に落書きするという、若い人たちの評価を落とすようなことを、なぜするのでしょうか。プロの芸術家は、通りに絵をつるしたりなんかしないで、正式な場所に展示して、金銭的援助を求め、名声を獲得するのではないのでしょうか。

わたしの考えでは、建物やフェンス、公園のベンチは、それ自体がすでに芸術作品です。落書きでそうした建築物を台なしにするというのは、ほんとに悲しいことです。それだけではなくて、落書きという手段は、オゾン層を破壊します。そうした「芸術作品」は、そのたびに消されてしまうのに、この犯罪的な芸術家たちはなぜ落書きをして困らせるのか、本当に私は理解できません。

ヘルガ

十人十色。人の好みなんてさまざまです。世の中はコミュニケーションと広告であふれています。企業のロゴ、お店の看板、通りに面した大きくて目ざわりなポスター。こういうのは許されるでしょうか。そう、大抵は許されます。では、落書きは許されますか。許せるといふ人もいれば、許せないといふ人もいます。

落書きのための代金はだれが払うのでしょうか。だれが最後に広告の代金を払うのでしょうか。その通り、消費者です。

看板を立てた人は、あなたに許可を求めましたか。求めています。それでは、落書きをする人は許可を求めなければいけません。これは単に、コミュニケーションの問題ではないでしょうか。あなた自身の名前も、非行少年グループの名前も、通りで見かける大きな製作物も、一種のコミュニケーションではないかしら。

数年前に店で見かけた、しま模様やチェックの柄の洋服はどうでしょう。それにスキーウェアも。そうした洋服の模様や色は、花模様が描かれたコンクリートの壁をそっくりそのまま真似たものです。そうした模様や色は受け入れられ、高く評価されているのに、それと同じスタイルの落書きが不愉快とみなされているなんて、笑ってしまいます。

芸術多難の時代です。

ソフィア

出典：Mari Hankala.

クリティカルリーディング（批評読み）の重要性が指摘されつつも、我が国の国語科教育において教材として取り扱われる文章を批判・批評するという「読解力」の指導は十分に行われてこなかった。この点について、石原千秋は次のように我が国の国語科教育における「読解力」の指導の欠点を指摘している。⁶⁾

日本では、こういう具合に二つの相反する意見を同時に読ませる機会自体がほとんどない。実は、これもPISAの「読解力」試験の特徴の一つで、一つの事柄に対して異なる意見が出るのは当然だという前提に立って問題が作られている。「みんなが同じ」を尊重する村社会日本には、なじまない問題と言えらる。しかし、これがグローバルスタンダードなのだ。

この「落書きに関する問題」以降、教科書においても、全国学力状況調査においても、2つの「異なる意見」文章を取り上げての「読解力」の指導（調査・試験も含む）は目新しいものではなくなった。そして、その後のPISA調査における「読解力」の得点向上と順位の上昇が図られた点から見て、この問題が与えた「読解力」概念そのもののとらえ直しと読解指導の変化は肯定的に受け止めて良いと考えられる。

しかし、従来、我が国の国語科教育の読解指導にみられる「論理的思考力」育成の不十分さは依然として克服されていない。不十分さとは、読解における「引用」と「意味づけ」の指導の不十分さである。

「落書きに関する問題」の「設問3」は以下の通りである。⁷⁾

落書きに関する問3

あなたは、この2通の手紙のどちらかに賛成しますか。片方あるいは両方の手紙の内容にふれながら、**自分なりの言葉**を使ってあなたの答えを説明してください。

落書きについてのソフィアとヘルガの「意見・主張」を読み、両者の「内容について論理的な関係性を分析・解釈し、論述形式で答えさせる問題」である。出題の意図と採点基準が以下の通り示されている。

出題の意図 プロセス：熟考と評価 タイプ：議論・説得
採点基準⁸⁾

落書きに関する問3の採点基準	
コード	回答
正答（1点）	
1	片方または両方の手紙の内容にふれながら意見をのべている。手紙の筆者の主張全般（落書きに賛成か反対か）や意見の詳細を説明していてもよい。手紙の筆者の意見に対して、説得力のある解釈をしていること。課題文の内容を言い換えて説明しているのはよいが、何も変更や追加をせずに課題文全部または大部分を引用するのは不可。
誤答／無答（0点）	
0	自分の考え方の根拠が、課題文のそのまゝの引用に終わっている。（「」で囲ってあってもなくてもよい。） または：不十分な答えもしくは漠然とした答え。
9	無答

「設問3」とその解説から次の点が指摘できる。

- ① 読解とは、何かを「意見・主張」すること
採点基準に、「意見をのべている」「手紙の筆者の意見に対して、説得力のある解釈をしている」とある。ソフィアとヘルガの落書きに関する「意見・主張」文を読むのは、広告に関しての自身の「意見・主張」をするためなのである。単に両者の「意見・主張」の内容を正確にとらえることで読解が終結することではないのである。
- ② 読解とは、「引用」と「意味づけ」によって「意見・主張」を論証すること

正答の基準に「何も変更や追加をせずに課題文全部または大部分を引用するのは不可」とある。また、誤答の基準に「自分の考えの根拠が、課題文のそのままの引用に終わっている」とある。

これは、ソフィアとヘルガの「意見・主張」を単に「引用」しているだけでは不十分なことを示している。「引用」が「意見・主張」の根拠となるよう「意味づけ」られていなければならないのである。

同様に「設問4」を見ることとする。⁹⁾

落書きに関する問4

手紙に**何が**書かれているか、内容について考えてみましょう。

手紙がどのような**書き方**で書かれているか、スタイルについて考えてみましょう。

どちらの手紙に賛成するかは別として、あなたの意見では、どちらの手紙がよい手紙だと思いますか。片方あるいは両方の手紙の**書き方**にふれながら、あなたの答えを説明してください。

出題の意図は、「設問3」と同様に「プロセス：熟考と評価、タイプ：議論・説得」であり、採点基準¹⁰⁾は以下の通りである。

落書きに関する問4の採点基準	
コード	回答
正答（1点）	
1	片方または両方の手紙のスタイルについて意見を述べている。文体、議論の組立て、議論の説得力、論調、用語、読み手に訴える手法などの特徴を説明している。「よい議論」と述べている場合、それについての立証が必要である。
誤答／無答（0点）	
0	筆者の主張に対する賛成または反対の観点から判断を下している。または単に内容を言い換えている。 または：十分な説明なしに判断を下している。
9	無答

「設問4」は、ソフィアとヘルガの手紙の内容ではなく、両者の手紙のスタイルについての考えを述べさせる。スタイルについて検討させることが後の読解指導に与えた影響についてはここでは触れない。しかし、手紙の「内容」であれ、手紙の「スタイル」であれ、解答者に説得力のある解答を求めていることは明らかである。正答の採点基準に『「よい議論」と述べている場合、それについての立証が必要である」とある。誤答の採点基準には「単に内容を言い換えている」「十分な説明なしに判断を下している」とある。量差の手紙のスタイルの善し悪しを判断する際には、「立証」したり、「十分な説明」が求められているのである。

PISA 調査の「落書きに関する問題」が我が国の「読解力」の指導に与えた影響を、他者の文章を批判・批評することが欠けていたにとどめるのは課題を矮小化することとなる。読解とは、「意見・主張」することであり、「意見・主張」に説得力を持たせるために、文章から「引用」し「意味づけ」ことなのである。「読解のための読解から、説得力のある主張のための読解」への転換を図らなければならない大きな課題なのである。

(2) 全国学力状況調査における問題

PISA2003 年調査結果が教育界にとどまらず、「学力低下」という大きな社会問題に発展した経緯の詳細はここでは触れないが、調査結果が全国学力状況調査（以下「全国学力」とする）の復活を促したことは議論を待たないであろう。

その「全国学力」の第 1 回目（平 19 年：2007 年実施）に 以下の問題がある。¹¹⁾

<青木さんが書いた感想文>

先生は、この二人の感想文はどちらも良い書き方だとみんなにしようかと思いました。二人に共通する良い書き方とは、どのようなことですか。二つ書きましょう。

※メモは、次のページにあります。

主人公あゆみの印象的な言葉。「いつもそばにいていっしょに行動することだけが友達じゃない。ときにはきよりを置き、友達を見守ることが大切だ。」わたしは、この本を読んで、はげまされ、勇気をもらいました。

あゆみは、親友とささいなことでもけんかをします。少しずつ二人の心ははなれてしまい、落ちこんでいきます。そんなとき、全く気が合わないと決めつけていた別の友達が、「気にしすぎだよ。そのうち、仲良くなれるよ。」と声をかけてきました。話すことが少なかった友達が、声をかけてくれたことで、あゆみは元気づけられ、前向きな気持ちになれたのでした。

わたしは、この本と出会ってから、いろいろな人と広くかかわることができるようになりました。少しのけんかは気にせずに、できるだけ多くの友達をつくらうと思います。この本に出会うことができ、本当によかったです。

3

中川さんの学級では、夏休みに読んだ本の中で心に残ったものを感想文に書き、図書新聞にのせることにしました。先生が、感想文の書き方の勉強になるように二人の感想文をしようかしました。同じ本について書いた二人の感想文を読んで、あとの問いに答えましょう。

<高橋さんが書いた感想文>

わたしは、「相手のきげんをとったり、合わせたりするのは、本当の友達とはいえない。」という主人公あゆみの言葉をうまく受け入れられません。この本を読んで、人と人がつながることのむずかしさを改めて考えました。

あゆみは、親友とうまくいけなくなったとき、今までとはちがう見方をしました。少しずつはなれていく関係になみながらも、新しく友達との関係をつくることができました。いつまでも考えこまず、気持ちを切りかえるようにしたのです。あゆみは自分にとって本当の友達とは何かということの答えを見つけたのです。

わたしも、あゆみと同じような体験をしたことがあるのですが、うまくいきませんでした。広く人とかがわり、新しく友達を見つけていくことは大事です。だからといって、すぐに気持ちを切りかえるのはかんたんではありません。これからも、人と人とのつながりについて、考えていきたいと思っています。

2つの異なる意見を取り上げて比較させるという問い方はPISA調査の問題そのものといえる。

しかし、「全国学力」の設問は、「二人に共通する良い書き方とはどのようなことですか」である。2つの感想文は、どちらも「良い書き方」だという前提での出題である。蛇足になることを承知で述べれば、この設問にも我が国の国語科教育における石原の指摘はあてはまる。「日本の国語教育は与えられた文章を『ありがたいもの』として、徹底的に受け身の立場に立って『読解』することだけが行われている」¹²⁾があてはまる。

「正答例【小学校国語B】は以下の通りである。¹³⁾

(例)自分の体験をもとにした感想や意見、決意が明確であること。

主人公の言葉を使ったり、物語のあらすじをまとめたりしていること。

問題に示された、青木さん・高橋さんの感想文のどの部分が「自分の体験をもとにした感想や意見」なのであろうか。それを示していなくても正答なのであろうか。「決意が明確である」というのは、2人の感想文のどの部分なのであろうか。例えば、「青木さんの『できるだけ多くの友だちを作ろうと思う』と、高橋さんの『これからも人と人のつながりについて考えていきたい』は、これからも人（友だち）と関わっていく決意をはっきり書いている点で共通している」が正答例ではないのだろうか。先に示した「正答例」であれば、2つの感想文にふれてあるかどうかは不明確のままでよいことにもなる。

(3) PISA 調査問題、全国学力調査問題の比較にみる「論理力」の育成

「全国学力」の問題は、PISA 調査の問題と比較すると違いが明確になる。「全国学力」の設問は「二人に共通する良い書き方とはどのようなことですか」である。おそらくPISA調査であれば、「二人のどちらに賛成しますか」という設問の表現になるはずである。どちらかに賛成するということは、もう一方は反対だと言うことになる。こういう読解指導は行われにくい。国語科教育に限らず、我が国の教育においては、他者の「意見」を批判することと、他者「そのもの（人格と置き換えても良い）」の区別が曖昧だからである。他者の「意見」への意義・申し立て・批判は、その「意見」を表明した他者「そのもの」へのそれと受け止められることが一般的だと思われるからである。平成10年改訂の学習指導要領にもとづいて国語科教育に大々的に取り入れられた「ディベート」が、現在では小さな扱いになっていることも無関係ではない。「ディベート」に対する教育現場の教師の拒否反応は、当時小学校教諭であった筆者が身をもって感じた点であり、研究会・研修会等の席上で、「ディベートは日本の教育になじまない」等の意見を耳にすることも珍しくはなかった。

内容あるいはスタイルであっても、2つのどちらかに賛成させるからこそ、解答者（学習者）は、どちらに立脚点を置くかの判断を迫られるのである。それが、「意見・主張」の明確さを促すことになる。そして、2つの意見の内容・スタイルから必要とされる情報（デ

一タ)を「引用」し、「意見・主張」を成り立たせるための「立証」や「十分な説明」といった「意味づけ」をしなければならなくなる。明確な「意見・主張」の存在とデータの「引用」と「意味づけ」の三者に整合性を持たせることが「論理的思考」である。

「全国学力」の設問は、我が国の生徒・児童に「論理的思考力」を身につけさせるという点から見て不十分である。

3 国語科教育における「論理的思考」育成の弱さ2

(1) PISA 調査における「芝居は最高に関する問題」¹⁴⁾

① 「引用」と「意味づけ」

PISA2012年調査における「読解力」をみる問題である。2012年調査は「数学的リテラシー」を主として見る調査なので、「読解力」の出題は3である。しかし、2題が文学的文章を題材としている。

2. 読解力

2.1 ■ 芝居は最高に関する問題 (PISA2009年調査問題)

芝居は最高

イタリアの海岸にある城で起こったできごとである。

第1幕

5 海岸にある城の、さびやかに飾られた客間。右側と左側にドア。舞台の中央は居間のようになっていて、長いす、テーブル、2つのソファが置いてある。舞台奥には大きな窓、星空が見える。舞台上は暗い。幕が上がると、左側のドアの向こうから、男たちが大きな声で話しているのが聞こえる。ドアが開き、三人のタキシードを着た紳士が入ってくる。一人がすぐに明かりをつける。三人は無言で中央に進み、テーブルのまわりに立つ。三人は同時に腰をおろす。ガルは左側のソファに、テュレイは右側のソファに、アダムは中央の長いすに座る。とても長い、気まずくなるほどの静けさ。ゆったりとした長い間、静けさ。そのとき：

ガル

20 そんなに何を考えこんでいるんだ？

テュレイ

芝居を始めるのがいかに難しいかについて考えているんだよ。始まったときに、主な登場人物全員をどうやって紹介すればいいものか。

アダム

きつと難しいんでしょうね。

テュレイ

30 そう、実に難しい。芝居が始まる。客席がシーンとする。役者が出てくる。苦悩の始まりだ。いったいだれがだれで、こいつが何をしようとしているのかが、客にわかるまでの15分間が、果てしなく長い時間を感じるんだ。

ガル

35 まったく変わったやつだな。ほんの1分でも芝居のことを忘れられないのか？

テュレイ

忘れられないね。

ガル

40 劇場、役者、芝居、その話めじや、30分だっていられないんだからな。人生は芝居だけじゃないんだぞ。

テュレイ

45 芝居だけだ。私は劇作家だからね。これが私にかけられたのろいなさ。

ガル

そんなに仕事にとりつかれなくなつていいだろう。

テュレイ

50 うまくできるようになるまでは、とりつかれるしかないんだ。途中には何もない。実のところ、芝居の書き出しっていうのは、大変なんだ。演劇技術の中でも、こんなに大変なことはなかなかないよ。登場人物をてきぱきと紹介する。たとえば、そう、われわれ三人のいる、この場面だ。タキシードを着た三人の紳士。われわれが入ってきたのは、この立派な城の部屋ではなくて、芝居が始まったばかりの舞台だとして。そうすると、われわれがいったいだれなのか、みんなにわかるまでずっと、おもしろくないセリフをべらべらとしゃべりまくらなきゃいけないんだよ。それよりも、ひとりひとり立ち上がりて自己紹介したほうが、どれだけ楽なことか。(立ち上がる) こんばんは。私たち三人は、この城にまねかれた客です。食堂ですばらしい夕食、それにシャンパンを二本飲んできたところですよ。私はサンドール・テュレイ。劇作家です。30年間、劇を書いてきました。これを職業にしております。

ガル

70 以上。君の番だ。

ガル

(立ち上がる) 私の名前はガル。私も劇作家です。私の書く作品はすべて、この紳士との共作です。私たち二人組は業界では有名でして、話題の喜劇やオペレッタのチラシには、みなガルとテュレイ作と書かれています。そういうわけで、私にとっても、これが職業です。

ガルとテュレイ

80 (いっしょに) 次のこの若者……。

<p>90 アダム (立ち上がって)一番若い者ではございますが、失礼ながら自己紹介いたしますと、私はアルバート・アダム。25歳で、作曲家をしております。この大先輩のお二人の、最新作オペレッタの作曲をさせていただきました。私にとっては、舞台にかかった初めての作品です。このお二人が私を見出してくださった。そして、お二人の力をかりて、有名になりたいと思っています。私をこの城につれてきてくれたのも、このお二人。コートとタキシードを作ってくれたのも、このお二人。つまり、今のところ私は貧しい、無名な人間でしかありません。両親はなく、祖母が育ててくれました。その祖母も、もう亡くなってしまった。私はこの世界でたった一人。名声も、お金もないのです。</p> <p>105 テュレイ しかし、君には若さがある。</p> <p>ガル そして、才能もある。</p> <p>アダム 110 そして、あの歌手に恋をしている。</p> <p>テュレイ それは言わなくていい。そんなことは、いずれ客にもわかることだ。</p> <p>全員、腰をおろす</p>	<p>115 テュレイ ほら、芝居を始めるのに、これほど簡単な方法はないだろう？</p> <p>ガル 120 これが許されるのなら、芝居を書くのも簡単になるな。</p> <p>テュレイ 実のところ、そんなに難しくはないんだ。考えてみるよ。すべてがこういうふうに……</p> <p>125 ガル わかった、わかった、わかった。芝居の話はやめてくれ。もうたくさんだ。話したいなら、明日にしてくれ。</p>
--	--

設問は1～4まであり、以下に示すのは「問3」¹⁵⁾である。「読解の側面(プロセス)」は「統合・解釈」となっている。

芝居は最高に関する問3

ある読者が言いました。「城にまねかれたことについて、三人の中では、たぶんアダムが一番わくわくしていると思う。」

このような意見を言うとしたら、どんな理由をあげたらよいでしょうか。文章の内容にもとづいて、理由を書いてください。

PISA調査における文学的文章を題材とした設問の特徴として、ある人物(登場人物ではない)の「主張・意見」が示され、その「主張・意見」の根拠・理由を述べよ(記述せよ)という問いかけの形式がある。「意見・主張」を解答者に委ねると、解答が多岐にわたり採点に困難を来すためであると考えられる。

この設問においては、「城にまねかれたことについて、三人の中では、たぶんアダムが一番わくわくしていると思う。」が、この文学的文章を読んだ「ある読者」の「主張・意見」にあたる。そして、その「主張・意見」を成立させるための理由を記述させるのである。理由を記述する際には「文章の内容にもとづいて」という条件が付されている。

解答する生徒は、まず、「データ」を探さなければならない。問題は連続的テキストであるから、「データ」は文章に表されている語句(言葉と文章)になる。次に、データとして選択した語句(言葉と文章)が、なぜ「主張・意見」を成り立たせるのかという「意味づけ」

を行わなければならない。

我が国の国語科教育の授業、特に小学校の場合では、設問3の問いかけの形は取らないことが多い。「城にまねかれた、三人の中で、一番わくわくしていると思うのは誰ですか」という問の形を取る。三人のうち一人を特定させた後に、「そう思った理由を挙げてください（発表してください）」という問（指示）が追加されることになる。調査における設問という性格上、三人のうち一人を特定し、その理由を記述させるためには問3の形になることが望ましい。

仮に、「城にまねかれた、三人の中で、一番わくわくしていると思うのは誰ですか」「そう思った理由を挙げてください（発表してください）」という問の形を取ったとしても、理由の述べる際には、文章から語句を選択し、その意味づけを行わなくてはならない。

② 全国学力状況調査における問題

平成19年度「全国学力状況調査 国語B問題」¹⁶⁾には、文学作品を題材とした問題は出題されていないため、次年度の問題を見ることとする。

平成20年度
「全国学力状況
調査 国語B問題」
において取り上げ
られた文学作品は、
棕鳩十「大造じい
さんとガン」「母グ
マ子グマ」である。

三 小川さんは、おかあさんグマの気持ちがよく表れているところとして、本文中の部分（虚線部分）を例に挙げてしようかいたします。その中で、——部の「わらいことに」には、おかあさんグマのどのような気持ち（虚線部分）が表れていると考えられますか。次のメモをもとにし、あとの条件に合わせて書きましよう。

【メモの一部】

◆一びきや二ひきではない犬のおいがしてきた。

◆イタドリの芽がつくつくとしてている。

◆イタドリの芽は、クマのごちそうである。

【条件】

○ 「犬」と「イタドリの芽」の二つの言葉を入れて書くこと

○ 四十字以上八十字以内にまとめて書くこと

わらいことに

↑

おかあさんグマの気持ち

これは、PISA 調査の「熟考・評価」に関わる問題を想定しての出題である。

この平成 20 年度時点において、出題者にも PISA 調査がどのような「読解力」を求めているのかを十分に理解できているとは言い難い設問である。

椋鳩十「母グマ子グマ」を読み、その作品の紹介を書いた「小川さん」という人物のテキスト（文章）を例に取り上げているが、あくまでも「おかあさんグマのどのような気持ちが表れていると考えられますか。」という、テキスト（文書）の内容それ自体の読解を問題にしている。正答（例）は「犬が近づいて来て早くにげなければならないのに、子グマの好きなイタドリの芽が目の前にあることが分かり、それを食べようとしてにげおくれしてしまうことを心配している。」である。これは、文学作品の読解に必ず取り上げられてきた登場人物の心情把握であり、従来の「読解」と何ら変わりがない。

この問題の設問二に関する解説は以下の通りである。¹⁷⁾

(1) 趣旨

登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読むことができるかをみる。

「わるいことに」という場面についての描写とおかあさんグマの心情を解釈して書く問題である。

本設問では、場面についての描写を整理したメモの一部を基にしながら、「犬」と「イタドリの芽」の二つの言葉を入れて書くこと、四十字以上八十字以内にまとめて書くことの二つの条件に即して各様に設定した。

この「解説」においても、PISA 調査の「読解」への理解が十分でないことがみてとれる。仮に、この場面における母グマの心情「にげおくれしてしまうことを心配している」であったとしても、PISA 調査における「読解力」は、その「心配している」という心情の解釈の基となるテキストにおける語句を「取り出し（引用）」、その語句が「心配している」ことを「意味づけ」ているかどうかをみるのである。「登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読むことができるかをみる。」という「趣旨」にもかかわらず、従来の読解と変わらない。

③ PISA 調査問題、全国学力調査問題の比較にみる「論理的思考」の育成

「叙述と関連づけて読むことができるか」をみるならば、「おかあさんグマが心配しているというのはどこからわかりますか」と問わなければならない。そして、テキスト(文章)に書かれてある語句を「引用」できているのか(「」の有無は問わない)が正答の第一条件でなければならない。さらに、語句が「引用」されているだけでは不十分な読解であり誤答としなければならない。「引用」した語句が「心配している」と結びつけ(「意味づ

け) られている趣旨の解答が書かれていることが正答の十分条件である。

「誤答について」は以下の通りである。

■解説

○場面の様子については説明しているが、おかあさんグマの気持ちについて触れていないものは誤答とする。

PISA 調査における正答・誤答の採点基準であれば、次のように書かれるのではないか。

(例)・おかあさんグマの気持ちの基になっている語句を取り上げていないものは誤答とする。

・単に語句を取り上げているだけで、おかあさんグマの心情と結びつけていないものは誤答とする。

「全国学力」の問題は、登場人物の心情を従来のように読解することを求めており、どの語句が、なぜその心情に結びつくのかという論理的な思考を図るものになっていない。

4 「読解力」の指導において「論理的思考力」を育成するために

「はじめに」で述べたように、国語科教育が従前から抱えていた「論理的思考力」育成の課題は依然として残されたままである。それは、国語科教育における「読解力」の向上に不可欠な「叙述に即す」という指導が不十分なままであることに起因する。

特に、文学的文章(「物語文」)の指導において、文章に表現されている語句(叙述)を「引用」することと、「引用」した語句(叙述)を主張・意見に「意味づける」指導が充分に行われていない。従来と変わらず、「思い入れ読み」が廃されておらず、「読解」という名の下に「印象と感想」の交流が授業の主流である。

その要因としては、次の2点が考えられる。

- ① 学習指導者の「文学的文章を論理的に読む」という意識の低さ。
- ② 「文学的文章を論理的に読む」際に不可欠な、「引用」の仕方と「意味づけの仕方」に関わる指導方法を身に付けていない。

(1) 文学作品の読解指導における学習指導者の「論理的思考力」の不十分さ

「全国学力」で取り上げた、椋鳩十の「大造じいさんとガン」「母グマ子グマ」を題材とした問題では、おかあさんグマが「心配している」ことを論証させる正答例ではない。我が国の国語科教育における文学作品の読解指導では、おかあさんグマが心配しているということを「読み取り」「読み味わう」ことが主とされてきたのである。国語科教育の研究会・研修会・勉強会等においては、「物語を味わう」「物語に浸る」「登場人物になりきる」「登場人物に寄り添う」といった表現の発言を耳にすることは多い。それらの発言には、裏返し

としての、「物語を理屈で読むな」という意識がある。この意識が学習指導者に根強く残っているために、「読解力」を身につけさせる指導が不十分になるのである。

「物語を味わう」「物語に浸る」は、本来「作品鑑賞」の指導において成されるべきであり、「読解」は、その字の如く「読み解く」指導が成されなければならない。文学作品に表されているのは理屈ではないかもしれないが、その作品を教育の場で「読解」することは理屈なのである。

(2) 文学的文章を「論理的」に読む必要性

新美南吉「ごんぎつね」は、現在我が国で使用されている全ての教科書に掲載されている著名な文学作品である。「ごんぎつね」の6の場面（最終場面）の読解において、「兵十に撃たれたごんはどんな気持ちだったのでしょうか」という発問は散見されるところである。「兵十に撃たれたごんは幸せだったのでしょうか」という発問に表現が変えられることもある。

このような発問によって展開される授業は理屈の述べ合いにはならないことがほとんどである。「ごんは悲しかった」、あるいは「ごんは幸せだった」という発言が児童から出されたとしても、「どの語句（表現）からそう言えるのか」「その語句（表現）が、なぜ、『悲しい』『幸せだった』に結びつくのか」といった読解指導にはならないのである。「読解指導」という名の「鑑賞指導」が行われるのである。

では、「読解」指導がその名の通りになるにはどのような指導が必要なのであろうか。

- 1 教師「～の場面のごんの気持ちは？」→「ごんは悲しい気持ち」→そうですね

この状態では、児童の発言を単に教師が受け取っただけである。

- 2 教師「～の場面のごんの気持ちは？」→「ごんは悲しい気持ち」→「ごんが悲しい気持ちだというのはどの語句（ことば・文章）から分かりますか？」→『ぐったりとうなづきました』と書いてあるから

この状態でも読解は不十分である。「ぐったりとうなづきました」が、「ごんが悲しい気持ち」であることの「意味づけ」が成されていないからである。しかし、この2の状態で終わる読解指導は多い。

- 3 教師「～の場面のごんの気持ちは？」→「ごんは悲しい気持ち」→「ごんが悲しい気持ちだというのはどの語句（ことば・文章）から分かりますか？」→『ぐったりとうなづきました』と書いてあるから」→「なぜ『ぐったりとうなづきました』という表現が、「ごんは悲しい気持ち」の証拠になるのですか？」

「ごんは悲しい」という①「意見・主張」がある。この「意見・主張」を支える②「データ（語句）」の選択がある。その「データ（語句）」がなぜ「意見・主張」を支えることになるかの③「意味づけ」がある。この三者が一体となっていることが「読解」指導である。

PISA2003年調査で脚光を浴びたとも言えるのがフィンランドの教育である。北川達夫は「フィンランドメソッド」に以下の授業場面を取り上げている。¹⁸⁾

私が三年生の文法の補習授業に参加したときのことで。先生は単語を一つずつ挙げ、その品詞が何であるかを生徒に質問していきます。

『机（ポタユ）は何？ オッリ』

「名詞です」

もちろんフィンランド語でも「机」は名詞ですから、オッリ君の答えは正解です。ところが、先生は即座にたずねたのでした。

「ミクシ？（どうして？）」

「ええっと、『ぼくが机します』とは言わないし、それに・・・」

オッリ君はいっしょうけんめい、なぜ「机が名詞なのか」を説明しました。

北川は、文法指導においてさえみられる、フィンランドの教育について、「容赦なく『ミクシ？（どうして？）』とたずねられては、生徒たちは自分の発言を客観的に見直さざるを得ません。こうして、論理力、さらには批判的思考力が育っていくのです。」¹⁹⁾と述べている。

北川は、文学作品の指導においても次のように述べている。²⁰⁾

結局のところ、日本もフィンランドも同じことをやっているのです。国語の問題を通じて、論理力の訓練をやっているはずなのです。それなのに、なぜわれわれは論理力が身につかないのでしょうか。

おそらく、これは教える側の意識によるものでしょう。論理を強烈に意識して教えるか、あまり意識しないで（場合によっては、まったく意識しないで）教えるかの差が出たものと思われます。日本で「論理」を前面に押し出して国語を教えている先生は、まだまだ少ないのです。

おわりに

「はじめに」において、PISA2003年調査以降の国語科の教科書が、「PISA 調査向けのトレーニングテキストかとも見まごうような様相を呈している感もある」と述べた。PISA 調査の「落書きに関する問題」のように、2つの「意見・主張」を比較する形で「読解力」を向上させようという取り組みはもはや目新しいものではない。しかし、その指導に「論理を強烈に意識して教える」という視点がなければ、単に表面をなぞった指導になるだけで、児童生徒に「論理的思考力」を身につけさせることにはならない。論理的思考による読解とは以下の通りである。

- ① 「意見・主張」がある。
- ② 「意見・主張」を支える「データ（語句）」を文章から選択できる＝判断力
- ③ 「データ（語句）」が「意見・主張」を支える「意味づけ」ができる。
- ④ ①～③を整合性のあるものとして一貫性を持たせることができる＝思考力
- ⑤ ④を他者が納得できる形で表現できる＝表現力

「読解」とは「論理的思考」をすることであり、「読解力」の育成とは「論理的思考力」を育成することでもある。そして、「論理的思考力の育成」とは、現行（平20年版）学習指導要領に示されている「思考力、判断力、表現力の育成」に他ならない。

注・引用文献

- 1) 文部科学省「学力向上に関するこれまでの施策と PISA2009 の結果」2017.11 閲覧
http://www.next.go.jp/content/000001/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/07/128443_06.pdf
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』平成 20 年 6 月 東京書籍
- 3) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment～PISA 調査問題例～」より作成
http://www.next.go.jp/content/000001/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/07/128443_02.pdf (2009 年調査問題)2017.12 閲覧
- 4) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment～2009 年調査国際結果の要約～」2017.11 閲覧
http://www.next.go.jp/content/000001/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/07/128443_01.pdf
- 5) 文部科学省・国立教育政策研究所「PISA 調査・TIMSS 調査の公開問題例 PISA 調査(読解力)の公開問題例」<http://www.ceac.re.jp/linksy/pisatimss/kokaincmrbi.htm> 2017.11 閲覧 p19
- 6) 石原千秋『国語教科書の思想』筑摩書房 2005 p48-49
- 7) 文部科学省・国立教育政策研究所「PISA 調査・TIMSS 調査の公開問題例 PISA 調査(読解力)の公開問題例」<http://www.ceac.re.jp/linksy/pisatimss/kokaincmrbi.htm> 2017.11 閲覧 p22
- 8) 同上 p22
- 9) 同上 p23
- 10) 同上 p24
- 11) 文部科学省・国立教育政策研究所「文部科学省平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について(小学校国語 B)」p 小国 B11-12
http://www.nier.go.jp/tyusa/08mbi_stru_kdugp_h.pdf 2017.11 閲覧
- 12) 石原千秋『国語教科書の思想』筑摩書房 2005 p53
- 13) 文部科学省・国立教育政策研究所「文部科学省平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について(正答例)」
http://www.nier.go.jp/tyusa/08siterei_stru_kdugp_h.pdf 2017.11 閲覧
- 14) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment～PISA 調査問題例～」(PISA2009 調査) p5-6
http://www.next.go.jp/content/000001/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/07/128443_02.pdf 2017.11 閲覧
- 15) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment～PISA 調査問題例～」(PISA2009 調査) p8
http://www.next.go.jp/content/000001/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/07/128443_02.pdf 2017.11 閲覧
- 16) 文部科学省・国立教育政策研究所「文部科学省平成 20 年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について(小学校国語 B)」p 小国 B8
http://www.nier.go.jp/08tyusa/08mbi_02.pdf 2017.11 閲覧
- 17) 国立教育政策研究所・教育課程研究センター「平成 20 年度 全国学力・学習状況調査解説資料 小学校 国語」p42 http://www.nier.go.jp/08tyusa/08haisetu_01.pdf 2017.11 閲覧
- 18) 北川達夫『フィンランドメソッド入門』経済界 2005 p38
- 19) 同掲書 p39
- 20) 同掲書 p45

参考文献

- ・有元秀文「第 1 回 PISA 型読解力について考える」
<http://www.keiret.re.jp/g1/03/04/pisa.pdf> 2017.11 閲覧
- ・鶴田清司『対話・批評・活用の力を育てる国語の授業—PISA 型読解力を超えて—』、明治図書 2010
- ・有元秀文『必ず「PISA 型読解力」が育つ 7 つの授業改革—「読解表現力」と「クリティカル・リーディング」を育てる方法—』、明治図書 2008
- ・宇佐美寛『教育において「思考」とは何か』、明治図書 1987
- ・北川達夫『フィンランドメソッド入門』経済界 2005